



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1794秒です。

[印刷](#)

シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567001003	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(性と生)		
編集担当教員	宮原 春美		
授業担当教員名(科目責任者)	宮原 春美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宮原 春美		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]201		
対象学生(クラス等)	受講者の制限有り。指定選択科目の学部優先		
担当教員Eメールアドレス	spring@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部保健学科4階宮原研究室		
担当教員TEL	095-819-7954		
担当教員オフィサー	メールでまず連絡下さい		
授業のねらい	<p>本講座は「人間の性とは何か」についてアプローチする。</p> <p>近年、人々の性行動や規範は解放されてきたが、人々の生涯を豊かにする「人間関係としての性」の学習は保障されていない。この学習の不在に加えて、インターネットを頂点とするあふれるメディア情報に翻弄されているのが現代社会の姿ではなからうか。</p> <p>人間の性は本能ではなく、学習により獲得されることが一つの特徴である。</p> <p>「性」をテーマとして、自己と他者への思考を深め、性情報の取捨選択能力を培う。それらを通し、今後における個々人の豊かなセクシュアリティ確立とモラル形成を図る。</p>		
授業方法(学習指導法)	講義を中心に、一部演習・グループワークを取り入れる		
授業到達目標	<p>1.人間の性とは何かについて、科学的、社会的に考察できる。</p> <p>2.人間の性の多様性と関係性について討議できる。</p>		
授業内容	<p>以下の授業内容に応じて担当教員がそれぞれの専門分野から講義を行う。</p> <p>1, 2回: 人間の性とは何かについて考える。</p> <p>性科学で明らかにされてきた学際的な事実を知る。進化の過程からみたヒトの性の特徴、キンゼイレポートに始まる人々の性に対する様々な調査結果、マスターズ・ジョンソンが実験的に明らかにした「人間の性反応」などを学習する。まとめとしてWHOの定義した「セクシュアリティ」という概念について学ぶ。</p> <p>3回: 性別(セックス)の成り立ちの意味を科学的、社会的に学ぶ。またフェミニズムの視点から、ジェンダーについて学ぶ。</p> <p>4~6回: 人間の体の仕組みを「性の視点」から学ぶ。</p> <p>相互の理解と尊重のために、基本的な性器の構造と生殖(妊娠・分娩)の仕組みを学習する。特に情報の乏しい男性の身体についても学び、セックスや性器に関する誤解を是正し、正確な性情報の選択能力を培う。</p> <p>7回: 性感染症の具体的な知識を得ることによって、若年世代での性感染症蔓延の実態を認識する。性的健康を可能にする行動やパートナーとの関係性について考える。AIDSを始めとする性感染症の最新情報を得る。</p> <p>8~10回: リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学ぶ。</p> <p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて概観し、そのいくつかの健康課題について具体的な学習を通して豊かな男女の関係をいかに築くかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人工妊娠中絶に関する法律とその歴史的背景について</li> <li>避妊法(低用量ピル、緊急避妊法、コンドームなど)の進歩と実際について</li> <li>健康教育としての性教育の理論とその実際について</li> </ul> <p>10, 11回: 人間関係としての性を考える。</p> <p>個人のあり方はその時代の男女の社会関係そのものであり、社会的視点から愛、家族、結婚等について考える。</p> <p>12~15回: 人間の性の多様性を学ぶ。</p> <p>文化人類学的な視点から性の多様性を知る。また基本的な人権の視点から障害者、高齢者、同性愛者、トランスジェン</p>		

	ダーなどについて学ぶ。またレイプ、ドメスティック・バイオレンス、性的虐待、性の商品化などの現況を把握し、性行為における同意の質を考える。
キーワード	Sexuality, 多様性, ジェンダー, 同意, リプロダクティブヘルス/ライツ
教科書・教材・参考書	「人間の性とは何か」ミルトン・ダイヤモンド(小学館)、「セクソロジー・ノート」村瀬幸浩(十月舎) 「ジェンダーの西洋史」井上洋子他(法律文化社)、「性現象論」加藤秀一(勁草書房) 「Human Sexuality in a World of Diversity」Rathus, Spencer A. (Allyn & Bacon) 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」北村邦彦(メディカ出版)、「中絶論争とアメリカ社会」荻野美穂(岩波書店)、「ニューキンゼイレポート」(小学館)
成績評価の方法・基準等	各授業担当者毎に小テストを行う(40%)。また最終的なまとめとして課題レポート(40%)を提出する。授業への貢献度(20%)が悪い場合は評価の対象としない。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567001004	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(脳科学から探る人間性の理解)		
編集担当教員	森 望		
授業担当教員名(科目責任者)	森 望		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森 望		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]205		
対象学生(クラス等)	2年生		
担当教員Eメールアドレス	morinosm@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部・神経形態学(第一解剖)		
担当教員TEL	095-819-7017		
担当教員オフィスアワー	火曜日 16:00-18:00		
授業のねらい	私達「人間」は地球上における生命進化の一形態として存続しています。単なる生命体ではなく、高等な知性をもった存在であり、また優しい心をもった存在でもあります。いったい、人間とは何なのか？人間をもっと人間らしくしている「人間性」や「こころ」とは何なのか？この講義では現代の生命科学、特に「脳科学」の観点から「人間性」というものについて考えてゆきます。学を学び、職を手にし、大切な人を選択し、大人になる。自分を知る。人を想う。人として生きる。すべて、われわれの脳が考えることですが、脳科学の視点から真の人間になるための重要な要素について考察し、自分の理解、人の理解へつなげます。		
授業方法(学習指導法)	講義形式。適時、レポートを課す。		
授業到達目標	自分のことをしっかりと考え、他者(人)を理解し、人間というものの存在の意味を理性的に見つめることができる。自分のこころの中に豊かな「人間性」を育もうとする意識が芽生える。吾を知り、人を知る。その原点を解する。		
授業内容	<p>脳科学から探る人間性の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心 序論:こころはハートかマインドか？</li> <li>2. ヒト 人間になること、人間であること</li> <li>3. 生命 生きるということ、命の意味</li> <li>4. 進化 物質進化と生命、人間の進化と心の進化</li> <li>5. 脳 脳とは何か？</li> <li>6. 意識 意識と無意識、認知、認識、表象、創造、予測</li> <li>7. 言語 言語と脳情報:文字と文章、文化と文明</li> <li>8. 発達 発達脳:臨界期と可塑性、心の理論、自我と自己</li> <li>9. 成熟 成人脳:成熟と恒常性、自己と他者、人間社会と世界認識</li> <li>10. 老化 老化脳:寿命と死、神経変性と人格、老いと円熟</li> <li>11. 感性 喜怒哀楽:感動と共感</li> <li>12. 知性 知・情・意:脳と意識</li> <li>13. 創造 真・善・美:脳と創造性</li> <li>14. 真理 真・信・心:脳と真理</li> <li>15. 人間 ヒューマニティー:人間らしくあること</li> </ol>		
キーワード	生命、進化、脳、情報、知性、感情、心、人間		
	<p>教科書は特になし。ただし、下記を必携本として推奨。これが座右にあると理解をおおいに助ける。 岩田誠(監修)「史上最強カラー図解:プロが教える脳のすべてがわかる本」ナツメ社(2011)1,575円</p> <p>参考書としては下記を参照:</p>		

教科書・教材・参考書	時実利彦「人間であること」(岩波新書) 茂木健一郎「心を生み出す脳のシステム」(NHKブックス) 下條信輔「意識とは何だろうか」(講談社現代新書) 酒井邦嘉「言語の脳科学」(中公新書) 養老孟司「唯脳論」(ちくま学芸文庫) 立花隆「脳を究める」(朝日文庫) リタ・カーター「脳と心の地形図」(原書房) 教育と医学の会「健康と生き方を考える」(慶應義塾大学出版会) 生田哲「サイエンティストになるには」(ペリかん社)
成績評価の方法・基準等	出席(20%)、授業への参加態度(30%)とレポート(50%)を総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	生きることについて自分なりの問題意識をもって参加すること。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	学習目標: 生命、人間、脳について基本的なこと、大事なことを理解する。 人間の成長や老いについて考え理解する。 人間性を育む上で重要な要素について考察する。 教育目標: 自分をみつめ人を思いやることの大切さを知る。 吾を知り、人を知る。 その原点「脳」を解する。 自らの脳を活用し理解する。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1795秒です。

[印刷](#)

シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。

戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月4																																
開講期間																																			
必修選択	選択	単位数	2.0																																
時間割コード	20120567003002	科目番号	05670030																																
授業科目名	●生体の機能(感覚から脳へ)																																		
編集担当教員	澄川 耕二																																		
授業担当教員名(科目責任者)	澄川 耕二																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	澄川 耕二																																		
科目分類	人間科学科目																																		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																
教室	[全]201																																		
対象学生(クラス等)	1年, 2年, 3年, 4年																																		
担当教員Eメールアドレス	sumikawa@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	長崎大学病院麻酔科教授室																																		
担当教員TEL	7367(819-7367)																																		
担当教員オフィスアワー	火曜日 9:00-12:00																																		
授業のねらい	人は、「聞く」「見る」「痛い」などの感覚を通して、外界からの情報を得ている。本授業では、そういった感覚を受け取れる感覚器の「しくみ」と「働き」や、最終的にその感覚を統合する脳との関係を理解してもらいたい。また、そういった感覚が失われたときの障害による影響－ハンディキャップ－の対策や、過剰な感覚－痛み－が及ぼす影響へのケアについても理解してもらいたい。																																		
授業方法(学習指導法)	教科書は用いず、授業計画に沿ったプリントや資料を配付する。参考文献は適宜紹介する。																																		
授業到達目標	ヒトが生きていく上での感覚とそれを統合する脳との関係の重要性を理解する。また、感覚が失われたことによるハンディキャップや過剰な感覚に対するケアの基礎ができることを目標とする。																																		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>ヒトの五感のしくみと機能を順次解説し、それが失われたとき(ハンディキャップ)や痛みのケアについて説明する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人はどのように音や音楽を聴くか?</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>聞こえが悪いと何が起るか?</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>におい、味がなくなると人はどうなるのか?</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>体のバランス調節のしくみと運動機能</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>体のバランスとその障害</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>眼のしくみと働き(1)－目はカメラに似ている。コンタクトレンズを使っても大丈夫か?－</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>眼のしくみと働き(2)－目にもカメラと同じフィルムがある－</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>眼のしくみと働き(3)－目にもカメラと同じレンズがある－レンズ交換可能?</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>目と障害－見えなくなる病気はやっぱり恐ろしい－</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ロービジョン－眼のハンディキャップ－どうしたらより良い日常生活が送れるか?</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>痛みの心理学的側面</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>痛みを感じる神経系のしくみ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>痛みを和らげ治療する方法</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>癌の痛みと緩和ケア</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終末期医療(ターミナルケア)を考える</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	人はどのように音や音楽を聴くか?	2	聞こえが悪いと何が起るか?	3	におい、味がなくなると人はどうなるのか?	4	体のバランス調節のしくみと運動機能	5	体のバランスとその障害	6	眼のしくみと働き(1)－目はカメラに似ている。コンタクトレンズを使っても大丈夫か?－	7	眼のしくみと働き(2)－目にもカメラと同じフィルムがある－	8	眼のしくみと働き(3)－目にもカメラと同じレンズがある－レンズ交換可能?	9	目と障害－見えなくなる病気はやっぱり恐ろしい－	10	ロービジョン－眼のハンディキャップ－どうしたらより良い日常生活が送れるか?	11	痛みの心理学的側面	12	痛みを感じる神経系のしくみ	13	痛みを和らげ治療する方法	14	癌の痛みと緩和ケア	15	終末期医療(ターミナルケア)を考える
回	内容																																		
1	人はどのように音や音楽を聴くか?																																		
2	聞こえが悪いと何が起るか?																																		
3	におい、味がなくなると人はどうなるのか?																																		
4	体のバランス調節のしくみと運動機能																																		
5	体のバランスとその障害																																		
6	眼のしくみと働き(1)－目はカメラに似ている。コンタクトレンズを使っても大丈夫か?－																																		
7	眼のしくみと働き(2)－目にもカメラと同じフィルムがある－																																		
8	眼のしくみと働き(3)－目にもカメラと同じレンズがある－レンズ交換可能?																																		
9	目と障害－見えなくなる病気はやっぱり恐ろしい－																																		
10	ロービジョン－眼のハンディキャップ－どうしたらより良い日常生活が送れるか?																																		
11	痛みの心理学的側面																																		
12	痛みを感じる神経系のしくみ																																		
13	痛みを和らげ治療する方法																																		
14	癌の痛みと緩和ケア																																		
15	終末期医療(ターミナルケア)を考える																																		

	16
キーワード	目とカメラ、ロービジョンケア、聴覚、平衡覚、臭覚、味覚、痛みのしくみ、終末期医療
教科書・教材・参考書	参考文献は適宜紹介
成績評価の方法・基準等	レポート(60%)と授業への貢献度(40%)で評価する。
受講要件(履修条件)	3分の2以上出席しなければ単位は成立しない。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567003001	科目番号	05670030
授業科目名	●生体の機能(循環と血液)		
編集担当教員	前村 浩二		
授業担当教員名(科目責任者)	前村 浩二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前村 浩二		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]403		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	maemura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	長崎大学病院本館9階940		
担当教員TEL	095-819-7288		
担当教員オフィスアワー	16:30-17:30		
授業のねらい	生体の機能、なかでも生体維持の中心でもある循環系に関わる血液、肺(呼吸器)、心臓について生体維持のためどのような働きをしているのか具体的な理解を深める。さらには高血圧症など関連する疾患についてもなるべくわかりやすく解説する。		
授業方法(学習指導法)	血液、呼吸器、循環器疾患の実際の診療に携わっている医学部教官が、それぞれの専門分野について分担して講義します。専門医がせっかく講義するわけですので、病気に関することでも結構ですので、活発な質問を期待します。		
授業到達目標	生体内での循環の仕組み、どのように生体を維持しているかを理解できるとともに、生体の巧妙なメカニズム、不思議さに気づいてもらえればと考えています。また、高血圧症について周囲の人に解説できるようにしたいと思っています。		
授業内容	1.血液に関し、血液細胞の種類、その産生秩序と機能、また、血液細胞の一生について解説する。2.肺(呼吸器)に関してガス交換や換気力学などの呼吸機能のみでなく肺の感染防御機能についても講義する。3.心臓の解剖と機能について解説する。4.生活習慣病として頻度が高く、健康に重大な影響を及ぼす高血圧およびメタボリックシンドロームに関し講義する。		
	回	内容	
	1	心臓:心臓および血管系の構造について概説するとともに、その働きに関して理解する。	
	2	心臓:循環系の概要:心臓や血管の異常による疾患の概要について理解する。	
	3	心臓:心臓の正常な拍動をもたらす生理機構を概説する。また、不整脈の概要を理解する。	
	4	血管:高血圧症の歴史、その定義、心血管病などの合併症、生活習慣の是正を中心とした治療法について概説する。	
	5	呼吸器:ヒトの呼吸器系の構造を概説するとともに、ヒトの呼吸の生理について理解を深める。	
	6	呼吸器:呼吸器の病気について概説する。特に、インフルエンザに関する理解を深める。	
	7	心臓、血管の機能についてグループディスカッションを通じて理解を深める。	
	8	呼吸器:呼吸器病に対するタバコの弊害について理解する。	
	9	血液:血液の成分、血球の種類と基本的な機能について概説する。造血とその調節についても理解する。	
	10	血液:止血機構に関し血小板機能と凝固因子の働きを概説する。また、線溶系の概要、血液凝固機構を理解する。	
	11	心臓:狭心症や心筋梗塞について理解を深める。	
12	血液:白血球による免疫の仕組みについて概説する。		

	13	血液:免疫の異常によって引き起こされる身近な病気であるアレルギー、さらにはエイズについて理解を深める。
	14	心臓:心不全とはどのような病態かを理解する。
	15	血管:メタボリックシンドロームの概念、心血管病との関連、予防法について概説する。
	16	試験
キーワード	血管、心臓、血液、呼吸器	
教科書・教材・参考書	特に指定した教科書はないが、Mader著「human Biology」(McGraw-Hill)は参考書として推薦できる。	
成績評価の方法・基準等	筆記試験で行いますが、出席状況を考慮します。 (筆記試験60%、授業中の課題に対する積極的な取り組み状況40%)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567003004	科目番号	05670030
授業科目名	●生体の機能(皮膚とその病気)		
編集担当教員	清水 和宏		
授業担当教員名(科目責任者)	清水 和宏		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	清水 和宏		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	kasimizu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部皮膚科学(長大病院10階)		
担当教員TEL	095-819-7333		
担当教員オフィスアワー	金曜日13時から15時		
授業のねらい	皮膚は外界に接する臓器であり、種々の刺激を受ける可能性の高い臓器である。また内部の変化を反映する臓器でもあり、その反応はしばしば皮疹として目で確認する事ができる。担当教官は全員皮膚科専門医であり、無侵襲で確認できる皮膚の変化を講義にて皮膚科専門医が説明し、皮膚の生理、機能を理解してもらう。		
授業方法(学習指導法)	皮膚科専門医がパワーポイントを使い、実際のケースにおける皮疹を提示説明する。質疑応答の結果をふまえて報告レポートを提出してもらい、理解力・問題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機付けを高め、科学的な思考方法と学習能力を育てる。学生と教員相互のコミュニケーションを図り、もの見方考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>代表的皮膚疾患を対象として、その典型的な皮疹をスライドでまず確認してもらう。皮疹の性状を皮膚科専門医が説明し、見えている皮疹から得られる情報を整理してもらう。また顕微鏡による観察を説明し、肉眼所見との関連性を理解へと繋げる。最終的にはその疾患の臨床経過が説明され、その疾患の大まかな理解をしてもらう。具体的な症例を提示する事によって皮膚の生理、機能、役割を理解してもらう。</p> <p>第1回 4/6 光線により引き起こされる皮膚病(清水和宏)</p> <p>第2回 4/13 アレルギー性皮膚疾患 1(富村沙織)</p> <p>第3回 4/20 皮膚の深い話(小池雄太)</p> <p>第4回 4/27 皮膚癌(小池雄太)</p> <p>第5回 5/11 水ぶくれの話 上(鍛塚 大)</p> <p>第6回 5/18 帯状疱疹のはなし(富村沙織)</p> <p>第7回 5/25 カネミ油症と皮膚(小池雄太)</p> <p>第8回 6/1 膠原病の話 上(鍛塚 大)</p> <p>第9回 6/8 アレルギー性皮膚疾患 2(富村沙織)</p> <p>第10回 6/15 表皮癌の一手前(清水和宏)</p> <p>第11回 6/22 水ぶくれの話 下(鍛塚 大)</p> <p>第12回 6/29 塗り薬のはなし(富村沙織)</p> <p>第13回 7/6 皮膚良性腫瘍(小池雄太)</p> <p>第14回 7/13 膠原病の話 下(鍛塚 大)</p> <p>第15回 7/20 太陽光線とのつきあい方(清水和宏)</p>		
キーワード	皮膚		

教科書・教材・参考書	標準皮膚科学(医学書院) 新しい皮膚科学(中山書院)
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取り組み(60%)、レポートなど(40%)で評価する。
受講要件(履修条件)	原則として全回出席することを単位認定の要件とする。
本科目の位置づけ	一般教養としての皮膚のしくみやよくある皮膚病の学習
学習・教育目標	皮膚の性状を理解し、皮膚科医が種々の情報からどのように考えているかを学ぶ。
備考(URL)	<a href="http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/dermtlgv/">http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/dermtlgv/</a>
備考(準備学習等)	複数の教官で担当するため講義担当日や講義内容の変更がありうる事は容赦願いたい。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567003003	科目番号	05670030
授業科目名	●生体の機能(生体と薬:病を治す)		
編集担当教員	丹羽 正美		
授業担当教員名(科目責任者)	丹羽 正美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丹羽 正美		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]205		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	niwa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部基礎棟4階 第一薬理学教室		
担当教員TEL	095-819-7041		
担当教員オフィスパワー	17:00-18:00		
授業のねらい	人類の科学の進歩における薬の重要性を学ぶとともに、生体の機能と薬の相互関係、日常の嗜好品、麻薬、覚醒剤などの危険性についての理解も深める。モルヒネの詳しい薬効が既に紀元前9世紀から8世紀のホメロスの「オデッセイア」にペンテ「静かな心地よさと幸福感、そして安らかな満ち足りた眠気と睡眠」と記載されている等を学び、長い人間の歴史と薬の発見の過程を洞察する		
授業方法(学習指導法)	講義の概略をまとめた講義ノートを配布し、適宜、スライドをまじえて講義する。		
授業到達目標	治療薬の有効性と生体への効果・作用がかならずしも一致しないことを理解する。薬の有害事象の理解を深める。薬の作用機序を生体機能との関連で説明できる。麻薬の危険性を理解し、社会的位置付けを指摘できる。		
授業内容	<p>概要 人類の科学の進歩における薬の重要性、生体の機能と薬の相互関係、日常の嗜好品、および麻薬、覚醒剤などの危険性を講義する。</p> <p>第1回 薬の誕生/人類の歴史の中で、薬が如何に発見されてきたか。  第2回 薬の使用目的と適用/薬の多様な使用法、治療薬の選択  第3回 薬の効果に影響を及ぼす要因/生体機能と薬の相互作用  第4回 薬の体内動態/種々の生体分子と薬の関わり、薬効と有害事象の発症要因。  第5回 妊娠と薬/胎児を保護する投与方法と、禁忌の薬、妊娠と薬の新たな相互作用  第6回 脳と薬I/心と薬、運動機能改善薬、睡眠と薬  第7回 脳と薬II/神経細胞を保護する薬の開発、アルツハイマー病薬の開発の展望  第8回 生体と嗜好品/保健医薬品などと薬の開発  第9回 薬の乱用/乱用薬物、麻薬などの作用と危険性  第10回 感染症と薬/抗菌薬と抗ウイルス薬の発展  第11回 癌と薬/新しい抗癌剤の開発の方向性  第12回 ホルモンと薬/生体物質としての内分泌性物質  第13回 生活習慣病と薬 /社会生活と疾病、薬の意義  第14回 薬の有害作用/治療薬としての有害事象の種類と発生要因  第15回 創薬</p>		
キーワード	創薬、治療薬、脳と薬、薬の乱用、感染症と薬、癌と薬、ホルモンと薬、生活習慣病と薬、薬の有害作用		
教科書・教材・参考書	教科書は用いず授業計画にそって、プリント資料・スライド・液晶モニターで講義する。参考文献は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	毎回行う課題レポート、授業への参加状況等を考慮して行う。		
	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、個別指導を		

受講要件(履修条件)	行う。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	講義形態であるが、予め課題を適宜設定し、学生との討論を行うことがある。



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567005003	科目番号	05670050
授業科目名	●生命の科学(各トピックスから見た生命科学)		
編集担当教員	岡市 協生		
授業担当教員名(科目責任者)	岡市 協生		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡市 協生		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]430		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	okaichi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	原研放射		
担当教員TEL	095-819-710		
担当教員オフィスアワー	17:00~18:00 E-mailも受け付けます		
授業のねらい	最新のバイオテクノロジーから医療まで、幅広い領域での最新の知識を身につけ、それがどのように利用され人間の役に立っているのかを理解する。また、自分で興味を持ったトピックスについて自主的に調べてその内容を理解し、他の人に分かるように表現する力を習得する。		
授業方法(学習指導法)	講義にプリント等を配り、詳しい内容を解説する。また、授業の終わりには小テストを行い、その日の講義の理解を確かめる。全体の講義が終わるまでに、各自興味を持ったトピックスについてのレポートを作成して、最終回にレポートの発表会を行う。		
授業到達目標	日常生活で身近に接する最新の生命科学(バイオテクノロジーから医療まで)を科学的に理解し、それらを正しく利用できるような基礎知識を身につける。また、それらの知識を他人に分かりやすく説明できるようになる。		
授業内容	<p>ワトソン・クリックのDNA分子構造の発見から、DNAの構造、遺伝子の転写と発現調節、発生、分化、がん、さらには、最新のバイオテクノロジーや医療までを、さまざまなトピックスを取り上げながら解説する。</p> <p>第1回 DNAからバイオテクノロジーまで(岡市)  第2回 ゲノムの読解からオーダーメイド医療まで(岡市)  第3回 自分の脳を知ろう(岡市)  第4回 遺伝子転写と細胞分化(伊藤)  第5回 DNAの高次構造(中川)  第6回 DNA高次構造の修飾制御(中川)  第7回 DNA高次構造による遺伝子発現の制御(中川)  第8回 細胞周期と癌化(相原)  第9回 DNA複製とDNA損傷・修復(相原)  第10回 染色体分配メカニズム(相原)  第11回 性の分化1(水崎)  第12回 性の分化2(水崎)  第13回 生殖細胞の発生(水崎)  第14回 ES細胞とiPS細胞(水崎)  第15回 レポート発表会と全授業の総括(岡市)</p>		
キーワード	バイオテクノロジー、最新医療技術		
教科書・教材・参考書	各自で興味をもったトピックスに関する本を探してください。		
成績評価の方法・基準等	毎回の小テスト30% レポートの内容と発表態度70%		

受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月4																
開講期間																			
必修選択	選択	単位数	2.0																
時間割コード	20120567005002	科目番号	05670050																
授業科目名	●生命の科学(口腔の構造・機能と疾患)																		
編集担当教員	藤田 修一																		
授業担当教員名(科目責任者)	藤田 修一																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤田 修一,和泉 伸一,六反田 賢																		
科目分類	人間科学科目																		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																
教室	[全]430																		
対象学生(クラス等)	全学部																		
担当教員Eメールアドレス	fujishu@nagasaki-u.ac.jp																		
担当教員研究室	歯学部教育研究棟(A棟)1階 口腔病理学分野																		
担当教員TEL	095-819-7645																		
担当教員オフィスアワー	16:30～18:30、または上記の電子メールを利用																		
授業のねらい	皆さんは、毎日いろいろな人と話し、いろいろな物を食べて生活しています。このような活動は人間が快適な生活をするのに基本的なことですが、何気なく話したり、食べ物を食べたりしていませんか。もし、このような活動が不自由になつたらどうなるか考えたことがありますか。本科目では、会話や咀嚼・嚥下で重要な役割を担う口腔の構造と機能について講義を行います。次いで、口腔の構造と機能の破綻、つまり口腔の疾患の成り立ち、さらにそれらの疾患をどのように治療または予防するかについても講義を行い、多くの方に「口腔」の役割と重要性を理解してもらうことを目的としています。																		
授業方法(学習指導法)	4人の教員により「口腔の構造・機能と疾患」に関する基本的な事項と代表的な疾患を講義すると共に、先端的な研究や治療法も概説します。																		
授業到達目標	1) 口腔の基本的な構造と機能を説明できる。2) 歯・骨・軟骨の形成機構を説明できる。3) 口腔領域の疾患を列挙できる。4) 齲蝕・歯周病の病態を説明できる。5) 腫瘍の定義・特徴を説明できる。6) 口腔疾患に関連した全身疾患を説明できる。7) 歯、顎、口腔などに異常状態が生じた結果起こり得る重要な機能障害(開口障害、閉口障害、摂食障害、咀嚼障害、嚥下障害、発音障害、呼吸障害、知覚および味覚障害など)に関して、これらの原因(異常状態)と治療について概ね理解できる。																		
授業内容	<p>第1, 2, 5, 6, 7回(担当:和泉)は、口腔の基本的な構造と機能および歯・骨・軟骨の形成機構を解説する。 第3, 4, 8, 9, 10回(担当:藤田)は、口腔領域で頻度の高い疾患について講義し、病理学の臨床領域での役割についても解説する。 第11回～15回(担当:高橋、六反田)は、口腔領域の異常を外科的立場から解説する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(4/9 和泉) オリエンテーション。口・歯・顔面とは何か、動物からヒトまで、その形と仕組みを考える。予防と口腔歯科医療の概説。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(4/16 和泉) 歯と口の中(舌など)を肉眼・光学顕微鏡・電子顕微鏡で観察した構造と機能を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(4/23 藤田) 口腔病変と病理組織診断:口腔領域の疾患を概説する。また、医療業務の1つである病理診断について解説する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>(5/7 藤田) 虫歯(齲蝕):感染症としての齲蝕とその続発症である歯髄炎・根尖性歯周炎を解説する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>(5/14 和泉) 顎とその関節・頭頸部の筋肉と噛む運動、神経、血管やリンパ節、唾液腺を解説する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>(5/21 和泉) 歯はどのようにできるかを解説する。歯の発生機構、細胞の生死、歯の再生などに関する研究を紹介する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>(5/28 和泉) 骨と関節の分類、構造、発生・発達・老化、骨と軟骨の細胞を解説し、ホルモンとの関係の研究を紹介する。</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	(4/9 和泉) オリエンテーション。口・歯・顔面とは何か、動物からヒトまで、その形と仕組みを考える。予防と口腔歯科医療の概説。	2	(4/16 和泉) 歯と口の中(舌など)を肉眼・光学顕微鏡・電子顕微鏡で観察した構造と機能を学ぶ。	3	(4/23 藤田) 口腔病変と病理組織診断:口腔領域の疾患を概説する。また、医療業務の1つである病理診断について解説する。	4	(5/7 藤田) 虫歯(齲蝕):感染症としての齲蝕とその続発症である歯髄炎・根尖性歯周炎を解説する。	5	(5/14 和泉) 顎とその関節・頭頸部の筋肉と噛む運動、神経、血管やリンパ節、唾液腺を解説する。	6	(5/21 和泉) 歯はどのようにできるかを解説する。歯の発生機構、細胞の生死、歯の再生などに関する研究を紹介する。	7	(5/28 和泉) 骨と関節の分類、構造、発生・発達・老化、骨と軟骨の細胞を解説し、ホルモンとの関係の研究を紹介する。
回	内容																		
1	(4/9 和泉) オリエンテーション。口・歯・顔面とは何か、動物からヒトまで、その形と仕組みを考える。予防と口腔歯科医療の概説。																		
2	(4/16 和泉) 歯と口の中(舌など)を肉眼・光学顕微鏡・電子顕微鏡で観察した構造と機能を学ぶ。																		
3	(4/23 藤田) 口腔病変と病理組織診断:口腔領域の疾患を概説する。また、医療業務の1つである病理診断について解説する。																		
4	(5/7 藤田) 虫歯(齲蝕):感染症としての齲蝕とその続発症である歯髄炎・根尖性歯周炎を解説する。																		
5	(5/14 和泉) 顎とその関節・頭頸部の筋肉と噛む運動、神経、血管やリンパ節、唾液腺を解説する。																		
6	(5/21 和泉) 歯はどのようにできるかを解説する。歯の発生機構、細胞の生死、歯の再生などに関する研究を紹介する。																		
7	(5/28 和泉) 骨と関節の分類、構造、発生・発達・老化、骨と軟骨の細胞を解説し、ホルモンとの関係の研究を紹介する。																		

	8	(6/4 藤田) 歯周病(歯肉炎・辺縁性歯周炎): 齶蝕と共に歯科での2大疾患である歯周疾患を解説する。
	9	(6/11 藤田) 口腔のがん: 腫瘍の定義、及び口腔領域の腫瘍、特に扁平上皮癌について解説する。
	10	(6/18 藤田) 口腔病変を伴う全身疾患: 口腔領域に症状を現す全身性疾患をいくつか取りあげ、解説する。
	11	(6/25) 異常状態による重要な機能障害(開口障害、閉口障害、摂食障害、咀嚼障害、嚥下障害、発音障害、呼吸障害、知覚および味覚障害など)について。
	12	(7/2) 口腔感染症について。
	13	(7/9) 損傷について。
	14	(7/23) 悪性腫瘍、良性腫瘍について。
	15	(7/30) 口唇口蓋裂、顎変形症について。
	16	
キーワード	口、歯、骨、軟骨、齶蝕、歯周疾患、腫瘍、摂食障害、咀嚼障害、口腔がん	
教科書・教材・参考書	なし	
成績評価の方法・基準等	第1, 2, 5, 6, 7回(和泉)、第3, 4, 8, 9, 10回(藤田)、第11回～15回(高橋、六反田)の講義について課した3回のレポート点(各100点満点)の平均点で評価	
受講要件(履修条件)	なし	
本科目の位置づけ	口腔・顎を消化器および骨格の両面からとらえ、口腔の構造、機能、疾患を一体として学ぶ。	
学習・教育目標	口腔の役割と重要性を理解する。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	口腔の基本構造を調べておく。	





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバスイ覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1796秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567005004	科目番号	05670050
授業科目名	●生命の科学(分子ストレス応答学)		
編集担当教員	鈴木 啓司		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 啓司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 啓司		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]103		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	kzsuzuki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医歯薬学総合研究科・放射線医療科学専攻・分子診断研究分野		
担当教員TEL	819-7116		
担当教員オフィスアワー	月曜日～金曜日:10:30~12:00		
授業のねらい	地球上に存在する生命は絶えず周囲の環境から刺激(ストレス)を受けそれに応答しながら生きています。この授業では、生命のストレス応答のメカニズムを分子レベルで理解するため、ストレスの本体とは何か、ストレス応答分子はどのような機能を有するのかについて解説します。		
授業方法(学習指導法)	授業は講義室におけるパソコンプロジェクターを用いた講義を中心に理解度到達試験を折り込んだものとします。		
授業到達目標	生命のストレス応答のメカニズムを分子レベルで説明できるようにする。		
授業内容	生命に作用するストレス源について説明し、なぜストレスとして作用するか、細胞はそれに対しどのように応答するかを分子レベルで解説します。全15回の授業に加え16回目に定期試験(1回)を行います。		
	回	内容	
	1	4月9日:ストレス学概要(ストレスとは何かを概説する)	
	2	4月16日:ストレスの種類(物理的ストレスの種類と作用機序を説明する)	
	3	4月23日:放射線ストレスとその応答の分子メカニズム(1)	
	4	5月7日:放射線ストレスとその応答の分子メカニズム(2)	
	5	5月14日:放射線ストレスとその応答の分子メカニズム(3)	
	6	5月21日:温熱ストレスとその応答の分子メカニズム(1)	
	7	5月28日:温熱ストレスとその応答の分子メカニズム(2)	
	8	6月4日:紫外線ストレスとその応答の分子メカニズム(1)	
	9	6月11日:紫外線ストレスとその応答の分子メカニズム(2)	
	10	6月18日:酸素ストレスとその応答の分子メカニズム(1)	
	11	6月25日:酸素ストレスとその応答の分子メカニズム(2)	
	12	7月2日:ストレスと進化(生命進化に対するストレスの関与を説明する)	
	13	7月9日:ストレスと疾病(ストレスに起因する病気について説明する)	
	14	7月23日:ストレス学総括(これまでの講義内容を総括する)	
	15	7月30日:全授業の総括(質疑応答を含む)	
16	8月6日:定期試験		

キーワード	放射線、紫外線、温熱、酸素、DNA、蛋白質
教科書・教材・参考書	指定せず。
成績評価の方法・基準等	成績は授業への取り組みおよび定期試験により評価します。○授業への取り組み(60点)、定期試験(40点)
受講要件(履修条件)	原則として全回出席しなければ単位は成立しません。
本科目の位置づけ	一般教養として、生命の基本単位である細胞を基盤において、ストレスに対する応答の存在を理解する。
学習・教育目標	自分の言葉で、ストレス応答の分子機構が説明できる。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火4																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20120567005001	科目番号	05670050																												
授業科目名	●生命の科学(生体を再生する:再生医療入門)																														
編集担当教員	朝比奈 泉																														
授業担当教員名(科目責任者)	朝比奈 泉																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	朝比奈 泉																														
科目分類	人間科学科目																														
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目																												
教室	[全]430																														
対象学生(クラス等)	1, 2年次																														
担当教員Eメールアドレス	asahina@nagasaki-u.ac.jp																														
担当教員研究室	医歯薬学総合研究科・顎口腔再生外科学分野																														
担当教員TEL	095-819-7701																														
担当教員オフィスアワー	随時																														
授業のねらい	21世紀の医療として再生医療が注目されており、多くの報道がなされている。しかし、その内容を理解することは必ずしも容易ではない。そこで本授業では高校で生物を履修しない学生にも理解できるように、再生医療の基礎となる生物の基本的構成、発生のしくみ、幹細胞についてわかりやすく解説し、実際に行われている再生医療の紹介を行う。それを通じて生命科学に興味を持ち、生命科学に対する理解を深めるようにする。																														
授業方法(学習指導法)	パワーポイントを用いた講義を中心として行う。																														
授業到達目標	幹細胞とは何かを理解し、再生医療の現状を説明できるようにする。																														
授業内容	<p>再生医療を理解するための基礎となる、生物の構成、生物の発生、幹細胞、組織工学について解説し、臨床の現場で進められている骨、歯、皮膚、血液、血管、肝臓の再生医療の実際を紹介する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生物のしくみ:生物の個体が個々の細胞が積み重なりできていることを解説する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生物のできた:受精から生物がどのような過程を経て作られるのか、ドリーの作製を通じ解説する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>幹細胞の不思議:幹細胞の種類、性質について、特にiPS細胞についての詳細な解説をする</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>組織工学とは何か:医学と工学がどのように融合して再生医療を実現しようとしているか解説する(</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>骨の再生医療:骨のでき方、構造、再生療法の実際について解説する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>歯の再生医療:歯のでき方、構造、再生療法の実際とともにインプラント治療について解説する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人工肝臓:人工材料と生体材料(肝細胞)を組み合わせた人工肝臓に求められるのは何か?その特徴と課題を述べる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>肝細胞移植と膵島細胞移植:細胞移植は臓器の移植にとって替わることが期待されている。いかにヒトに応用するかについて解説する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>造血幹細胞の生物学:造血幹細胞からの造血機構とその調節について説明する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>血液の再生医療:造血幹細胞移植(骨髄移植)について現状と展望を概説する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>血管の再生医療:血管の発生・新生過程を『幹細胞』を起点として解説し、血管再生治療のメカニズムについて理解を深める</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>血管の再生医療 血管再生医療の臨床応用の実際と将来展望について解説する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>唾液腺の再生医療:唾液腺のでき方、構造、再生療法の実際、また細胞の分化系譜とその可塑性について解説する</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	生物のしくみ:生物の個体が個々の細胞が積み重なりできていることを解説する	2	生物のできた:受精から生物がどのような過程を経て作られるのか、ドリーの作製を通じ解説する	3	幹細胞の不思議:幹細胞の種類、性質について、特にiPS細胞についての詳細な解説をする	4	組織工学とは何か:医学と工学がどのように融合して再生医療を実現しようとしているか解説する(	5	骨の再生医療:骨のでき方、構造、再生療法の実際について解説する	6	歯の再生医療:歯のでき方、構造、再生療法の実際とともにインプラント治療について解説する	7	人工肝臓:人工材料と生体材料(肝細胞)を組み合わせた人工肝臓に求められるのは何か?その特徴と課題を述べる	8	肝細胞移植と膵島細胞移植:細胞移植は臓器の移植にとって替わることが期待されている。いかにヒトに応用するかについて解説する	9	造血幹細胞の生物学:造血幹細胞からの造血機構とその調節について説明する	10	血液の再生医療:造血幹細胞移植(骨髄移植)について現状と展望を概説する	11	血管の再生医療:血管の発生・新生過程を『幹細胞』を起点として解説し、血管再生治療のメカニズムについて理解を深める	12	血管の再生医療 血管再生医療の臨床応用の実際と将来展望について解説する	13	唾液腺の再生医療:唾液腺のでき方、構造、再生療法の実際、また細胞の分化系譜とその可塑性について解説する
回	内容																														
1	生物のしくみ:生物の個体が個々の細胞が積み重なりできていることを解説する																														
2	生物のできた:受精から生物がどのような過程を経て作られるのか、ドリーの作製を通じ解説する																														
3	幹細胞の不思議:幹細胞の種類、性質について、特にiPS細胞についての詳細な解説をする																														
4	組織工学とは何か:医学と工学がどのように融合して再生医療を実現しようとしているか解説する(																														
5	骨の再生医療:骨のでき方、構造、再生療法の実際について解説する																														
6	歯の再生医療:歯のでき方、構造、再生療法の実際とともにインプラント治療について解説する																														
7	人工肝臓:人工材料と生体材料(肝細胞)を組み合わせた人工肝臓に求められるのは何か?その特徴と課題を述べる																														
8	肝細胞移植と膵島細胞移植:細胞移植は臓器の移植にとって替わることが期待されている。いかにヒトに応用するかについて解説する																														
9	造血幹細胞の生物学:造血幹細胞からの造血機構とその調節について説明する																														
10	血液の再生医療:造血幹細胞移植(骨髄移植)について現状と展望を概説する																														
11	血管の再生医療:血管の発生・新生過程を『幹細胞』を起点として解説し、血管再生治療のメカニズムについて理解を深める																														
12	血管の再生医療 血管再生医療の臨床応用の実際と将来展望について解説する																														
13	唾液腺の再生医療:唾液腺のでき方、構造、再生療法の実際、また細胞の分化系譜とその可塑性について解説する																														

	14	皮膚・粘膜の再生医療:皮膚・粘膜のでき方、構造、再生療法の実際について解説する
	15	授業の総括と討議
	16	補講日
キーワード	幹細胞、再生医療、組織工学	
教科書・教材・参考書	新・解体新書 ニュートン別冊 ニュートンプレス 分子生物学講義中継 井出利憲 羊土社 再生医療のしくみ 八代嘉美、中内啓光 日本実業出版社 ES細胞の最前線 クリストファー・T・スコット 河出書房新社	
成績評価の方法・基準等	レポート提出による評価100% 講義に先立ち小テストを実施する場合があるが、これは成績評価に含めない	
受講要件(履修条件)	特になし	
本科目の位置づけ	リベラル・アーツとしての生物学、とくに発生の知識の習得	
学習・教育目標	現在行われようとしている先端医療の内容を理解する	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567007001	科目番号	05670070
授業科目名	●人間と環境(ハンディキャップ)		
編集担当教員	村田 潤		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 潤		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 潤, 東 登志夫, 田中 浩二, 中垣内 真樹		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	jmura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	保健学科棟2F(村田教員室)		
担当教員TEL	095-819-7923		
担当教員オフィスパワー	火曜日12:00~13:00		
授業のねらい	疾病・事故・加齢等に伴う運動機能の障害やそれ等からおこる生活障害等により生じるハンディキャップについて学ぶ。また、リハビリテーションの観点から身体機能の障害改善のための主体的活動への働きかけや身体が多様な障害から生活障害を惹起させないための多面的な検討を紹介し、障がい者の生活権保障から社会生活におけるノーマライゼーションを模索することの理解を深める。		
授業方法(学習指導法)	講義・視聴覚資料の視聴・相互の意見交換		
授業到達目標	傷害された機能の再獲得のためのリハビリテーションの概要(特に作業療法視点から)を理解することにより、受動的な訓練と異なった主体的な活動による機能回復や開発を目指す支援方法の理解を深める。また、機能障害を代替する方法の変更・環境調整や機器の利用等により機能の障害を生活の障害とさせない支援について理解できるようにする。障害者・高齢者等の生活弱者の生活権の存在を理解する。それへの認識を深めて自律的生活遂行における困難な部分において支援を受ける権利の保障についてからノーマライゼーションを模索する視点を身につける。また、支援の企画を理解し提案できるようにする。		
授業内容	回	内容	
	1	授業ガイダンスおよびリハビリテーション概論 (村田)	
	2	生体機能の制御と環境適応と機能障害 (村田)	
	3	高次脳機能障害の理解と作業療法 (村田)	
	4	身体障害と作業療法 (東)	
	5	老年期障害と作業療法 (東)	
	6	生活障害と環境整備 (東)	
	7	高齢者の生活支援と作業療法の役割 (田中浩)	
	8	高齢者の身体機能 I (中垣内)	
	9	高齢者の身体機能 II (中垣内)	
	10	高齢者の身体機能 III (中垣内)	
	11	高齢者の運動とリハビリテーション (中垣内)	
	12	高齢者のリハビリテーションの効果 I (中垣内)	

	13	高齢者のリハビリテーションの効果 II (中垣内)
	14	高齢者のリハビリテーションの効果 III (中垣内)
	15	健康支援について (村田)
	16	
キーワード	リハビリテーション、ノーマライゼーション、作業療法、障がい者の生活	
教科書・教材・参考書	参考書: 上田敏リハビリテーションを考える(障害者問題双書) 福祉用具アセスメントマニュアル(中央法規) 他適宜配布・紹介する 選択したテーマに応じた視聴覚資料を利用する	
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度、レポート、期末試験などを総合的に評価する。	
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、個別に学習の指導を行う。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567009001	科目番号	05670090
授業科目名	●生体の構造(タンパク質の構造・機能及び生合成)		
編集担当教員	原 研治		
授業担当教員名(科目責任者)	原 研治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	原 研治		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]104		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	hara@net.nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	水産学部海洋生物化学		
担当教員TEL	819-2828		
担当教員オフィシアワー	金曜午後4時以降		
授業のねらい	授業のねらい: 生体高分子の中で最も多種多様の役割を持っているタンパク質の構造と機能を理解する。さらに生体を持つタンパク質の遺伝情報を担うDNAの構造を理解し、遺伝情報がどのようにして、親から子に移り、さらに細胞中でどのようにして発現されるのか(セントラルドグマ)を理解する。		
授業方法(学習指導法)	プリント、OHPあるいはパワーポイント、黒板を使用し講義する 毎回、次回講義のプリントを配付するので、次回講義時までには熟読しておくこと。		
授業到達目標	タンパク質、核酸の構造及びセントラルドグマを理解し説明できる		
授業内容	<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要) 生体高分子の中で最も多種多様の役割(筋肉収縮や生体防御など)を持っているタンパク質の構造と機能を理解する。核酸の構造と機能を理解し、タンパク質の遺伝情報が細胞中でどのようにして発現されるかを理解する。</p> <p>第1回 オリエンテーション 講義概要(アミノ酸とタンパク質)</p> <p>第2回 アミノ酸の種類と構造</p> <p>第3回 タンパク質の一次構造</p> <p>第4回 タンパク質の高次構造</p> <p>第5回 タンパク質の機能-酵素の分類と作用</p> <p>第6回 タンパク質の機能-酵素と補酵素(ビタミン)</p> <p>第7回 タンパク質の機能-生体防御タンパク質</p> <p>第8回 遺伝情報を担う物質 核酸の構造</p> <p>第9回 DNAとRNAの構造</p> <p>第10回 遺伝子DNAの発現</p> <p>第11回 DNAからRNAへの転写</p> <p>第12回 RNAからタンパク質への翻訳</p> <p>第13回 遺伝子発現の調節</p> <p>第14回 遺伝子クローニングの基礎</p> <p>第15回 授業の総括</p> <p>第16回 定期試験あるいはレポート</p> <p>1-5回: 吉田朝美、6-10回: 原 研治、11-15回: 長富 潔</p>		
キーワード	タンパク質・遺伝子・セントラルドグマ		
	図説 生化学 石倉久之等 著 丸善 など		

教科書・教材・参考書	
成績評価の方法・基準等	2/3以上出席の者で、レポート又は試験においてタンパク質の構造と機能及び遺伝子の構造と機能が理解できれば合格とする。
受講要件(履修条件)	30名以内
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120567009002	科目番号	05670090
授業科目名	●生体の構造(細胞の不思議)		
編集担当教員	遠藤 大輔		
授業担当教員名(科目責任者)	小路 武彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小路 武彦, 遠藤 大輔, 宋 寧, 宮西 隆幸		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]205		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	tkoji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部基礎棟2階		
担当教員TEL	819-7027		
担当教員オフィスアワー	木曜日 17:00-18:00		
授業のねらい	本講義では、生体の基本的な構成単位である細胞更には組織レベルでの構造に関する基本的な知識と理解を得る事を目的とする。具体的には、細胞内での蛋白質・遺伝子のダイナミックな動態制御に関して生理的な面から解説を行うと共に、細胞の分化・増殖・細胞死(アポトーシス)、更には生殖細胞やがん細胞の持つ生命現象の根幹としての不死性に関わる最新の知見についても解説する。		
授業方法(学習指導法)	講義毎に適宜プリント或いは液晶プロジェクター等を用いて授業を行う。		
授業到達目標	基本的な細胞質内の小器官の名称とその仕組み、DNAから蛋白質までの遺伝の基本的なメカニズム、核の構造と遺伝情報、細胞の分化・増殖並びに細胞死の基本的な制御機構等について説明できるようにする。		
授業内容	尚、16回目に定期試験を行う。		
	回	内容	
	1	細胞生物学の“こころ”:生命現象の不思議さを含めて細胞生物学の歴史、概念について総説する。	
	2	細胞中の分子と水とのつきあい:生命反応の基となる生体内の分子と水の相互作用	
	3	生体膜の構造:脂質2重膜	
	4	蛋白質の構造:細胞を構成する蛋白質	
	5	DNAとRNAの基本構造:核酸の基本的な構造	
	6	細胞と細胞の間には?:細胞同士の情報交換の場としての細胞間隙の構造と機能	
	7	細胞内小器官の構造と機能:小胞体、ゴルジ装置、ミトコンドリア等の構造と機能	
	8	核の構造と遺伝情報:核膜、クロマチン、核小体等の基本的構成単位と核と細胞質間物質輸送	
	9	遺伝情報の発現制御:DNA複製と転写、翻訳と翻訳後修飾の基本的な制御機構	
	10	細胞の分化と増殖:一つの受精卵から様々な細胞に分化していく細胞の多様性の不思議	
	11	細胞の死の形態:自ら死んでいく細胞死であるアポトーシスの制御機構とその最新知見	
	12	生殖細胞-いのちの伝達方法:次世代への遺伝情報を伝える精子、卵子の構造と機能	
	13	がん:無秩序に増殖する自分であって自分でない細胞であるがん細胞の基礎と臨床	
	14	筋細胞の形態と働き:動物機能を支えるその最高の仕組み	
15	総合討論:授業で学んだ生命現象の不思議について全員で討論を行う。		

	16
キーワード	細胞、核、蛋白質、遺伝子、生命
教科書・教材・参考書	Molecular Biology of THE CELL (Fifth Edition), Garland Science, Alberts B, Johnson A, Lewis J, Raff M, Roberts K, Walter P著を参考書とする。
成績評価の方法・基準等	定期試験(約80%)、課題レポート(約10%)、授業への積極的な参加状況(約10%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.